# 清水崑マンガ原画等資料アーカイブ化事業

## 概　要

清水崑（1912～1974）

ストーリーマンガを中心に世界で日本のマンガが評価を受け、電子マンガなど閲覧方法が多様化する中でマンガ文化は隆盛を極めている。他方、新聞等に掲載された所謂「大人マンガ」については、その存在が希薄になりつつある。昭和期に大人マンガ家の中心であった、「漫画集団」については関係者が高齢化する中で、改めて彼らのマンガ史、近現代史上での位置づけを再考する時期に来ていると言える。彼らは政治マンガ、風俗マンガ、著名人や演劇などの取材に本の挿絵や装丁など現在のジャーナリスト、イラストレーター、作家にも類する多彩な活躍を見せており、小説家、政治家、芸能人、出版人などと交友し、当時の文化人の一員としての一面を持っていた。

長崎市出身の清水崑（1912～1974）は、漫画集団の代表的なマンガ家の一人である。彼が描いた政治マンガは吉田内閣を中心に激動の戦後を、ユーモアを交えて伝えている。また、河童が人間のように生活する「かっぱもの」と呼ばれるマンガは大衆に広く受け入れられ河童ブームを巻き起こした。この残り香は現在も、黄桜酒造の河童のCM、東京都民の日のバッジ、かっぱえびせんの名称に見られる。

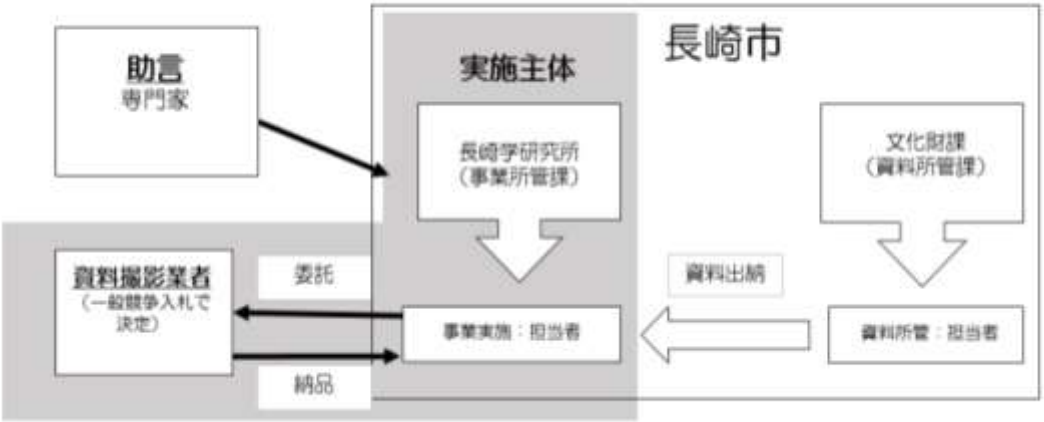
東京都民の日を記念した大東京祭記念バッジ

前述のとおり、清水を含む漫画集団に所属したマンガ家たちの知名度が低下し、関係者が高齢化する中で、当該マンガ家たちの業績を明らかにする研究が急務と言える。また、漫画集団は現在主流のストーリーマンガとは異なる漫画の形態、掲載媒体、人的交流があり、この業績を検討することは、マンガ史の一側面を明らかにするとともに、近現代史の一端を明らかにする研究であると考えられる。あわせて、長崎市としては、多大な業績を残した清水を顕彰するとともに、長崎学の一環として研究を進めている。以上から、研究及び清水の顕彰の基礎となるマンガ原画のアーカイブ化が必須であると考え、本事業の実施に至った。

NHK テレビ連続漫画として放送された『かっぱ川太郎』の原画

朝日新聞に掲載された政治漫画の原画

## マンガ原画等資料撮影体制



←
学芸員が資料を配置、撮影業者がNO.と撮影時の画像配置をカメラの画面上で確認する。

←
撮影された資料をパソコン画面で学芸員と撮影業者、双方で画像を確認する。

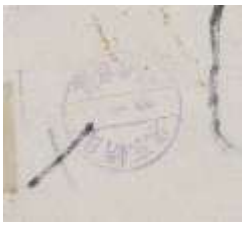
〇資料撮影事業については、事業所管課の長崎学研究所が資料撮影業者に撮影を委託し実施した。
　なお、資料の取り扱いは長崎学研究所の学芸員が対応した。
〇資料リストの追記作業については、長崎学研究所担当者が実施した。

## 成　果

公開・成果物

　今年度事業の成果物として次の 2 点が挙げられる。1 点目は清水崑原画等資料 2,300 点 4,600 カットの高精細画像である。写真撮影事業の中で、清水の指示やメモ、原稿の加工や掲載誌の印など今後の研究に繋がる情報を多く確認出来た。例えば、清水が朝日新聞に政治漫画を掲載していたことが知られているが、今回、昭和 40 年代に書かれた政治漫画原画の裏に「スポーツニッポン資料保管部」の印が押されていた。このことは、清水がスポーツニッポンとやり取りがあったことを示しており、今後、更に調査する必要がある。また、清水が政治漫画を描くきっかけとなった、『新夕刊』の原画も残さ

政治漫画に押印されたスポーツニッポンの印



政治漫画に押印された朝日新聞の印

れており、これには GHQ の検閲印が見られる。政治漫画は、当時の政治や世相を表現しており、近現代史に関する研究活動への利用などが想定される。また、清水崑展示館の展示でも、撮影した高精細画像が利用されており、今後の活用が期待される。

政治漫画に押印された新夕刊の印と GHQ の検閲印

２点目は、資料に関する目録の整理である。長崎市ではすでに清水崑原画等資料の基本情報についての目録が作成されており、これに原画の掲載誌や掲載日、出版社などの情報を順次追記している。更に、あいまいになっていたタイトルの整理、各項目の説明を記載するなど情報の整理を試みた。これらは、長崎市長崎学研究所の HP に文字情報として掲載しており、研究や展示などでの活用が期待される。将来的には文化庁の運営する、メディア芸術データベースへの掲載を目指し、最適な目録整理を継続する。本事業の成果物がマンガ史、近現代史の研究資料、学生の教育資料として利用されるよう検討していきたい。

文化的・社会的・経済的な意義と最終ゴール

今回の事業で、戦後から昭和 40 年代にかけてのマンガ原稿の事例を複数見ることが出来た。前述の、政治漫画の他にも印刷技術の問題なのか、原稿が折られて切り込みが入ったものや、赤鉛筆でタイトルや説明書きが入ったもの、掲載誌の印や取材のメモが裏に走り書きされたものもあった。また、紙に描いたものを別の紙に貼り付けてコマを作る、紙を上から貼って修正するなど清水のマンガ制作の特徴も見て取れた。このような、原稿から読み取れる情報が清水の個人研究及び当時の出版や印刷技術に関する研究に繋がると考える。

顔の部分に紙を貼って修正が行われている。

修正前の絵が裏面から見える。顔の角度や表情が異なる。

本事業については、地元の新聞やテレビで取り上げられたことで、関心が高まり、市民講座などの依頼があっている。このような講座や展示を通して、研究成果や調査内容についてまず地元に還元し、全国に発信していくことを目指す。

赤鉛筆での指示や原稿の加工が見られる。

※掲載画像の清水崑マンガ原画については、清水崑展示館所蔵となっています。